

# PPI・P-CAB フォーマュラリー

2025.7 作成 薬剤部

【監修】 消化器内科 横山雄一郎

## ● 第一推奨薬：ラベプラゾール、ランソプラゾール

- ランソプラゾールは、「PPI による治療効果不十分な場合の逆流性食道炎」を除く、幅広い適応症を有する。また、経済性にも優れるため、第一推奨薬とした。

※ランソプラゾールの簡易懸濁による胃管投与に関して（IF [通過性試験] より）

8Fr チューブ内に残存物は認められず簡易懸濁における通過性に問題なし

- ラベプラゾールは、最も幅広い適応症を有し、「PPI による治療効果不十分な場合の逆流性食道炎」に対する適応が唯一承認されている。相互作用が少なく、経済性に優れるため、第一推奨薬とした。

## ■ 条件付き使用推奨薬：タケキャブ（ボノプラザン）

ボノプラザンを必要とする患者は想定されるものの、第一推奨薬と比べて薬剤費は高価（最大 12 倍）であり、ガストリン値上昇に関する潜在的なリスクも懸念される。このため条件付き使用推奨薬とし、処方時に第一推奨薬も表示することで適正使用を促す。

「低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制」「非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制」での使用は控えていただきたい。また、入院初期や胃管挿管時に使用されるケースがあるが、抜管後や病状が安定した際には上記第一推奨薬のどちらかへ変更をお願いしたい。

## ◆ エソメプラゾール 20mg 規格・内用懸濁液は採用削除で検討

エソメプラゾールの 20mg 規格・内用懸濁液が削除候補となる理由として他剤と比較し薬価が高く、他剤の最大用量に対する優越性は十分に検証されておらず、第一推奨薬とした他剤で代替可能であるため、採用削除の候補とした。

- ※ エソメプラゾール 10mg はランソプラゾール供給不安定のため採用削除は保留。  
ランソプラゾールの供給が安定次第、採用削除で検討。